

氏名(本籍)	まえのてっひろ 前野哲博(茨城県)		
学位の種類	博士(医学)		
学位記番号	博乙第2378号		
学位授与年月日	平成20年4月30日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	<b>Indicators of a Major Depressive Episode in Primary Care Patients With a Chief Complaint of Headache</b> (頭痛を主訴にプライマリ・ケアを受診した患者における大うつ病性エピソードの指標)		
主査	筑波大学教授	博士(医学)	朝田 隆
副査	筑波大学教授	医学博士	松崎 一葉
副査	筑波大学講師	博士(医学)	堀 孝文
副査	筑波大学講師	博士(医学)	鮎澤 聡

## 論文の内容の要旨

### (目的)

プライマリ・ケアで最もよく遭遇する精神疾患の一つである大うつ病性エピソード (major depressive episode, MDE) は、日常生活における機能障害や活動範囲の低下を来すばかりではなく、自殺に至ることもある疾患である。それだけに MDE を見逃さずに正しく診断することは極めて重要である。頭痛もまたプライマリ・ケアでもっともよく見られる症状の一つであるとともに、MDE と合併することが多い。そこで頭痛を主訴にプライマリ・ケアを受診した患者における MDE の indicator を明らかにすることを目的として、病院と診療所の両方を含む多施設研究を行った。

### (対象と方法)

日本総合診療医学会リサーチネットワークおよび日本家庭医療学会でのアナウンスメントで募集を行い、応募のあった 19 施設 (診療所 8 施設, 病院 11 施設) を対象施設とした。

対象者は、頭痛を主訴に受診した 18 歳以上の患者で、緊急の対応を要する状態ではなく、急性感染症を示す所見がない患者とした。調査は 2002 年 1 月～12 月に行われた。

対象者に対して、診察の前に自記式の質問票の記入を依頼した。身体症状に関しては、3 つ以上の身体症状 (頭痛に加えて 2 つ以上の症状) を持つ患者を multiple somatic symptoms と定義した。重症度は、5 ポイントに分類した。精神的診断は、Mini international neuropsychiatric interview (MINI) に基づいて、診察室で外来担当医が診断し、MDE の診断基準を満たす者を MDE と定義した。

解析は、まず単変量解析を行い、次に、MDE の有無を従属変数とし、年齢、性別、単変量解析で  $p < 0.05$  となった項目を独立変数として多変量ロジスティック回帰分析を行った。

### (結果)

解析対象者は 177 名のうち、MDE の診断基準を満たしたのは 45 名 (25.4%) であった。単変量解析の結果では、臨床症状については、multiple somatic symptoms を有する対象者の MDE の有病率は 38.1% で、そ

うでない者の有病率（10.0%）と比較して4倍近い差を認めた（ $p<0.0001$ ）。病悩期間では、頭痛が1か月未満患者におけるMDEの有病率は13.3%、6か月以上続いている者の有病率は41.7%と有意に高かった（ $p<0.0009$ ）。重症度では、軽症患者では前DEは16.3%、重症患者は35.3%（ $p<0.004$ ）と有意に高かった。また他院受診歴の有無でMDEの有病率に有意な差を認めた。（38.5% vs 18.0%、 $p=0.003$ ）

多変量ロジスティック回帰分析では、MDEとの関連が認められたのは、multiple somatic symptoms（オッズ比4.28（95%CI 1.73-10.57））と病悩期間（6か月以上）（オッズ比3.07（95%CI 1.17-8.08））であった。

（考察）

MDE患者の多くは最初にプライマリ・ケア医を受診するが、患者自ら抑うつ気分などの精神症状を訴えることは少なく、見逃されていることが多い。その一方で、多くのMDEの患者は精神症状について医療者の方から質問されれば精神症状の存在を認めると言われる。よってプライマリ・ケア医にとって、MDEのindicatorが明らかになることは、MDEを見落とさずに正しく診断する上で極めて有用である。プライマリ・ケア医には、頭痛が6か月以上続いている場合や、multiple somatic symptomsを伴う場合は、MDEの存在をきちんと確認することが勧められる。

研究の限界として、診断バイアスおよび、選択バイアスが考えられる。また、構造化面接を施行したのが外来担当者であったことで、対象の回答が左右された可能性がある。さらに、調査者によって診断のバラツキを生じた可能性がある。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

これは、頭痛を主訴にプライマリ・ケアを受診した患者におけるMDEのindicatorを明らかにすることを目的として行われた病院と診療所の両方を含む多施設研究の報告である。その結果、頭痛が6か月以上続いていること、multiple somatic symptomsがみられることの重要性を指摘した。自殺防止・減少の観点からも極めて有用な論文である。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。